

拠点形成概要及び採択理由

機 関 名	長崎大学
拠点のプログラム名称	熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略
中核となる専攻等名	熱帯医学研究所
事業推進担当者	(拠点リーダー) 平山 謙二 教授 外 19 名
<p>[拠点形成の目的]</p> <p>2000年9月、国連において、国際社会が達成すべき目標として国連ミレニアム宣言が採択された。国際目標として掲げられた8つのミレニアム開発目標のなかでも、「2015年までにHIV/エイズを始めとする主要な疾病の発生を食い止め、その後発生率を減少させる」という感染症対策はその中心的課題となっている。</p> <p>本拠点形成の最終目的は、まさにこれら主要感染症の制御・克服である。本緊急課題の解決に取り組む長崎大学21世紀COEプログラムは、卓越した実績を基に世界の活動拠点として高い評価を受けている。過去5年間の実績を基盤に、目的達成に向けて拠点の更なる実質化と国際化を図る。</p> <p>感染症の制御・克服は、それ自身、人類の長年に渡る願いであり、そのためには周到な戦略、それを実行する人材、および適切な技術が必要となる。本拠点では、これまで主要な発生源が貧しい開発途上国であったために、顧みられることの少なかった「見捨てられた感染症(Dengue 熱, 住血吸虫症等)」や先進国では解決済みとみなされがちな「下痢症」にも焦点をあてる。熱帯病・新興感染症のうち、現在地球規模の課題となっている、あるいは開発の大きな阻害要因となっている感染症に対し、その制御と克服のための新戦略を包括的に構想し、その実行に必要な革新的技術の研究・開発を行うことを目標とする。また、その過程を通して将来の当該領域を支える有為な人材を育成する。</p> <p>[拠点形成計画の概要]</p> <p>本拠点は、すでに21世紀COEプログラム『熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点』においてH15-19年の間に以下に掲げるいくつかの熱帯病・新興感染症の教育研究に不可欠な基盤整備を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床医学, 社会医学, 病原体解析学, ベクター生態学から感染症にアプローチする科学者の糾合 2) アフリカニアおよびアジアパシフィックの常駐型海外感染症研究拠点の形成 3) 多様な感染症研究者育成プログラム(熱帯医学修士, 健康開発修士, 感染症研究者博士課程コース)確立 4) 国際機関(WHO等), 国内外の機関との密接な連携(国際感染症ネットワーク) <p>本計画では、こうした優れた基盤の更なる充実を図り、世界的トップレベルの感染症教育研究拠点を構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画 <p>拠点を目的を達成するために5年間の目標を以下のように設定する。但し、A), B), C) 領域の目標に関しては対象とする感染症を1) HIV/エイズ, 2) マリヤ, 3) 下痢症, 4) 見捨てられた感染症, 5) 新出現ウイルス, 6) プリオン病に絞り込む。</p> <p>A) 基礎研究：新しい診断治療戦略の開発(分子細胞レベル基礎研究, 病態生理研究) Evidenceに基づき新しい戦略の創出を行う。本領域では、感染症対策に資することを目的とした新しい科学的な発見を行う。具体的には、分子疫学, 病原体宿主生物学, 媒介昆虫学, 生態学, 治療学を応用した学問領域などが含まれる。</p> <p>B) 医薬品開発研究：新しい技術の創出(開発研究, 臨床介入研究) 現場のニーズを知る。民間セクターと公的セクター、および大学の連携を行う。この連携を基盤に新しい技術の創出を行う。具体的な領域としては、シスツーム開発(薬剤, ワクチン, 診断薬), 毒性学, 臨床開発が含まれる。</p> <p>C) 社会技術開発研究：新しい戦術の創出(ソーシャル・マーケティング, フィールド疫学研究) 政治・経済・社会・文化的背景を考慮した新たな感染症制御戦術の創出を行う。基礎研究や医薬品開発研究は、こうした社会技術の応用を用いることによって始めて、それを必要とする人々の手に届くものとなる。具体的には、医療経済学, 教育学, 政治学, 文化人類学といった人文・社会科学と公衆衛生学が深く連携した学問領域となる。そうした意味において、社会技術開発研究は、本拠点のユニークな学問領域となることが期待されている。</p> 2. 人材育成計画 <p>上記の研究開発分野で将来の担い手となる研究者の育成のための大学院教育, ホストク, テニユアトラックシステムを更に整備・拡充する。本領域では、医学のみならず保健学, 薬剤学, 公衆衛生学, 社会医学, 文化人類学, 教育学, 環境科学を含む複合保健学領域の教育を行う。そのために必要な教員として、多彩な人材をリクルートする。</p> 3. ガバナンス <p>ガバナンス体制として学長の直下に拠点リーダーを位置づけ、拠点リーダーは拠点内にCOE推進委員会, 人材育成部会, 研究推進部会を組織し事業推進担当者を統轄する。大学本部組織である国際連携研究戦略本部は海外拠点の運営や国際人材交流を専ら担うなど、大学全体で強力な協力運営体制を敷く。バーチャルでない実体ある機動的な組織としての充実を図り、包括的な新戦略の実践を可能とする。</p> 	

機 関 名	長崎大学
拠点のプログラム名称	熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略
<p>[採択理由]</p> <p>熱帯病、新興感染症の研究と対策を目指す世界的教育研究拠点形成計画であり、長崎大学の地域性、感染症研究、疫学の実績、さらに21世紀COEプログラムの実績に基づき、国際連携の実績を更に拡充する優れたプログラムであり、評価できる。感染症、特に新興感染症の対策と予防は現代社会において重要な問題であり、感染症研究を大学の中心テーマとして取り組み、教育研究組織の改革まで踏み込んだ運営体制は、拠点として将来の発展が期待できる。</p> <p>人材育成面においては、本拠点の目標を先取りし、新興感染症病態制御学系専攻、熱帯医学専攻、国際健康開発研究科などを立ち上げており、これまでの人材育成の実績も高く、国際共同研究拠点との連携も進められ、防疫など感染症に関してきめ細かい育成カリキュラム、プログラム等も計画されており、評価できる。また、国際感覚を持った感染症研究の人材育成に精力的に取り組む計画は、高く評価できる。</p> <p>研究活動面においては、プリオン、マラリアなどの研究に高い実績があり、感染症の治療薬、診断薬などの開発も目指しており、これらが機能することにより総合的な研究の進展が期待できる。ただし、いくつかの研究対象と研究方向に重点化し、優先的に推進することが望まれる。</p>	